

施策の評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け						
政策 体系	総 画 合 計	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり		
		基本政策	12	つながり広がるコミュニティの醸成	管理コード	051237
		施策	37	国際・国内交流と多文化共生の推進	本冊ページ	88
	関連個別計画					
	担当部局		市民部			
施策の内容(番号)		116		～	118	

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番 号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価	今後の方向性	担当課
		選択区分	選択区分	
116	友好都市等との交流においては、これまでの市民や行政間での交流に加え、青少年交流や文化、経済などの幅広い分野で、かつお互いの地域の発展につなげていけるような実効性あるさまざまな都市との交流を促進します。	A	①	市民交流課
117	地域における国際化をより一層進めるため、友好都市等に限らない世界各国の都市と交流し、国際感覚豊かな人づくり、地域づくりを進めます。	A	①	市民交流課
118	外国人住民からの相談や多様なニーズへの対応に向けた生活支援やコミュニケーション支援により、自立と地域社会への参画を促進するとともに、地域における多文化共生社会の重要な担い手である市民、団体、企業等に対して、より一層の異文化理解の向上に取り組み、多文化共生の地域づくりを推進します。	A	①	市民交流課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の 総合評価を 根拠とした 「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A	計画どおり友好都市中国鎮江市と姉妹都市ブラジルオザスコ市との交流事業を実施し、事業への参加者数は令和4年度から倍増したほか、国際交流協会による交流イベントや国際交流ボランティア団体によるホームステイ事業などへの補助を行いました。また、外国人人口が過去最大を更新するなか、市内に在住する外国人住民に対して引き続き一元的な窓口により情報提供や相談を多言語で行う生活支援を行った結果、7千件近い相談すべてが解決に至っており、多文化共生の地域づくりが進みました。

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	A	A	A				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策 体系	総合 計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり		
		基本政策	12	つながり広がるコミュニティの醸成	管理コード	051237116
		施策	37	国際・国内交流と多文化共生の推進	本冊ページ	88
	関連個別計画					
担当部局		市民部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各 事業の実施により期 待される効果		116	友好都市等との交流においては、これまでの市民や行政間での交流に加え、青少年交流や文化、経済などの幅広い分野で、かつお互いの地域の発展につなげていけるような実効性あるさまざまな都市との交流を促進します。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の 振り返りとこれから (実施評価、事業評価、 今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により 直接的に表れる効果	◆ 当初の 事業実施計画	実施 評価 事業 評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点		
	担当課		何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の 方向性	
116-1	海外の友好都市姉妹都市との交流事業	友好都市中国鎮江市と姉妹都市ブラジルオザスコ市との周年記念時等において各種記念事業を実施	効	交流関係者の招聘や訪問・交流事業の実施により本市の国際交流事業の推進に寄与する	◆ 国際交流事業の推進	○	友好都市・姉妹都市との間で実施した事業に伴う参加者は、令和4年度が6人、令和5年度が13人であり、コロナ後徐々に交流が活発となってきた。令和6年度には、鎮江市との友好都市提携40周年であり、更なる交流の活性化が図られるものとする。
			誰	市内外の人々	◇ 実施した事業への参加者数	○	
	市民交流課		何	本市の国際交流の推進に寄与するため	392 (千円)	現状維持	
116-2	国内友好都市交流事業	国内友好都市上富良野町等との新たな友好関係実現のための交流事業を実施	効	交流事業の実施により本市の国内交流事業推進に寄与する	◆ 国内交流事業の推進	◎	引き続き友好都市等として、津まつり等を通じた交流を続けていきたい。
			誰	市内外の人々	◇ 実施した事業への参加者数	◎	
	市民交流課		何	本市の国内交流の推進に寄与するため	335 (千円)	現状維持	
116-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
116-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和5年度分)

116-5		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
116-6		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
116-7		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
116-8		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があつたか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性		
今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	C	B	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり		
		基本政策	12	つながり広がるコミュニティの醸成	管理コード	051237117
		施策	37	国際・国内交流と多文化共生の推進	本冊ページ	88
	関連個別計画					
担当部局		市民部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		117	地域における国際化をより一層進めるため、友好都市等に限らない世界各国の都市と交流し、国際感覚豊かな人づくり、地域づくりを進めます。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
	担当課		何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性	
117-1	国際交流協会等補助事業	国際交流協会、国際交流ボランティア団体及び国際交流事業に対する補助	効	市内国際交流団体による国際交流事業の促進	◆ 国際交流及び多文化共生の推進	◎	コロナ禍では実施できなかった国際交流協会による交流イベントや国際交流ボランティア団体によるホームステイ事業など、コロナ前と同様に実施することができるようになったことから、今後も国際交流に資する事業等への支援を行っていきたい。
			誰	市内の国際交流ボランティア団体	◇ 国際交流団体等の事業の実施回数	◎	
	市民交流課		何	本市の国際交流に資するため	5,386 (千円)	現状維持	
117-2			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
117-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
117-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和5年度分)

117-5		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
117-6		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
117-7		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
117-8		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性		
今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	A	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	05	自分らしく心豊かに輝けるまちづくり		
		基本政策	12	つながり広がるコミュニティの醸成	管理コード	051237118
		施策	37	国際・国内交流と多文化共生の推進	本冊ページ	88
	関連個別計画					
	担当部局	市民部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		118	外国人住民からの相談や多様なニーズへの対応に向けた生活支援やコミュニケーション支援により、自立と地域社会への参画を促進するとともに、地域における多文化共生社会の重要な担い手である市民、団体、企業等に対して、より一層の異文化理解の向上に取り組み、多文化共生の地域づくりを推進します。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の 振り返りとこれから (実施評価、事業評価、 今後の方向性を選んだ理由)
	効		事業の実施により 直接的に表れる効果	◆ 当初の 事業実施計画	実施 評価		
	誰		誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業 評価		
	担当課		何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の 方向性	
118-1	外国人住 民総合相 談窓口事 業	市内に在住する外国 人住民に対し、生活 に係る適切な行政情 報や相談部署に迅速 に到達できるよう情 報提供及び相談を多 言語で行う一元的な 窓口の設置による外 国人住民への生活支 援	効	窓口等での通訳や行政情報の 多言語化を行う	◆ 多文化共生の推進	◎	コロナ禍に比べ相談件数 は減少したものの、外国人 人口が過去最大を更新して おり、引き続き一元的な窓 口の設置による外国人住 民への生活支援・相談を 行っていきたい。 (解決件数／相談件数) (6,867／6,867)
	誰		市内に在住する外国人住民	◇ 解決できた相談件数 (解決率95%以上)	◎		
	市民交流 課		何	母国語で説明することにより、伝 える側受ける側共に的確な意思 疎通ができるため、適切な行政 サービスの提供につながる	13,086 (千円)	現状維持	
118-2			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
118-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
118-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
118-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和5年度分)

118-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
118-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
118-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
118-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
118-10			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性		
今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	A	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

